



Jichi 地域連携ニュース

- | | | |
|-------------------|----------------------|-----------------|
| ・副病院長就任のご挨拶 松原 茂樹 | ・地域医療連携・患者支援部長就任のご挨拶 | ・平成28年度 附属病院の体制 |
| ・副病院長就任のご挨拶 遠藤 俊輔 | ……………森澤 雄司 | ・総合診療内科からのお願い |
| ・副病院長就任のご挨拶 山形 崇倫 | ・就任のご挨拶……………藤本 茂 | ・NST研修会のご案内 |

副病院長就任のご挨拶 —臨床研究：長編小説と短編—

産婦人科 科長
産婦人科学 主任教授 松原茂樹



2016年4月1日付けで副病院長に就任しました。産婦人科の松原茂樹です。同時に附属病院臨床研究支援センター長も兼務することになりました。

私事ですが、私は、自治医大2期生です。伊豆七島診療（一次医療）、総合病院部長（二次）、産婦人科三次医療、基礎医学研究（電顕研究18年）、そして臨床研究と、色々な事柄に関わってきました。種々分野の実務を実体験し、現場を知っていることが私の強みで、それを生かしていければ、と思っております。

臨床研究は益々重要になるでしょう。臨床研究には種々のカテゴリーがあります。症例報告、後ろ向き観察研究、前向き介入研究がその代表です。最近、前向き介入研究の重要性が増し、これを押し進めていこうとの機運が高まっています。ところが、これを実際に行うとなるとその労苦は並大抵ではありません。デザイン、研究実行、論文作成、の全段階に「勘所」があります。所詮、皆、患者

さんを1:1で診てきた「ただの」臨床医であり、前向き研究のプロ、などはいません。私もそうです。ですから、病院全体の衆知を集めて、臨床研究を押し進めていくことが重要で、そのお手伝いができれば、と思っております。

とはいうものの、個人的には「症例報告」を書くのが一番面白い。症例に深く関わって、注意深く観察すると、得るものが必ずあります。

重厚な前向き介入研究は長編小説、ピリッとまとめた症例報告は短編小説であり、どちらも重要です。長編作成のお手伝いをしながら、自分自身は、優れた短編小説のような、読後に余韻を感じさせる medical essayが書ければいいな、と思っております。

縁があって、意外なことに大きな病院の執行部の一員になりました。が、伊豆七島で、たった1人で患者と向き合っていた若い頃の心、患者さんと1:1で向き合う、その心を忘れないでいたいと思っております。どうかよろしくご指導下さい。

副病院長就任のご挨拶

呼吸器センター センター長
外科学講座 主任教授 遠藤俊輔



2016年4月1日付で副病院長に就任いたしました遠藤俊輔です。主に職員の待遇改善・負担軽減・医療安全・新専門医制度を担当させていただくことになりました。近隣の病院そして医師会の先生方にこの場をお借りしてご挨拶申し上げます。

私は1984年に筑波大学を卒業後、同附属病院で研修を修了した後に、1992年に自治医科大学附属病院の胸部外科に着任し、以来4半世紀にわたり、宇都宮社会保険病院（現JCHOうつのみや病院）や自治医大附属さいたま医療センターでの経験を含め、主に同病院の呼吸器センターでの肺癌外科治療を中心に仕事を行ってきました。昨年度からは、7部門からなる外科学講座の主任教授を務めています。

昨今の外科を取り巻く環境は、外科専攻医の半減、手術に関する医療事故、適応外手術などの取り扱いなど、非常に多岐にわたる問題に直面しております。

外科は直接人の生命、身体にかかる仕事であるため、一つミスで大きな不幸を生じ厳しい社会的批判を受ける立場にあるため、専門性を高くしできる限り事故のない質の高い手術を目指そうとしてきました。しかし、このことが、高齢化社会における将来を担う外科医の養成に大きな課題を生じせしめているのではないかと考えています。即ち、近年の高齢化社会においては、単一な病気を持っている方はかえって珍しく、多くの患者が複数の疾患を有する状況になっており、これら複数の疾患に対する総合

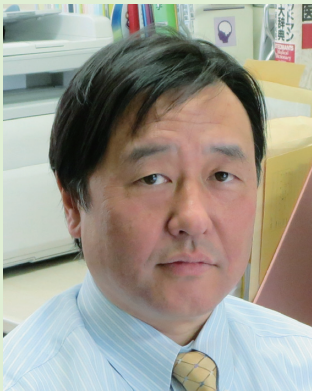
的な対応が必要となってきています。近年の外科診療の細分化や高度化は、専門領域外の疾患への対応の困難性につながることも多々あるようです。

全ての診療科を有する大学病院においては、時代に応じて変化する医療の状況に柔軟に対応し適切な治療を実現するために、診療科間の合理的連携を図り、大きな視点で対応できるような診療体制を築く必要があると考えられます。また、こうした総合的な視野を持つ専門外科医を養成できるような教育体制を築くことが我々大学病院の課題ではないかと思っています。

今まで以上に先生方の診療現場と密接に連携をはかり、総合的視点からの医療、及び、これを実現できる専門外科医の養成を実現化し、効率的で質の高い栃木県の医療を目指していきたいと思っておりますので、今後とも更なるご指導ご支援をお願い申し上げます。

副病院長就任のご挨拶

とちぎ子ども医療センター長
小児科学 主任教授 山形 崇倫



2016年4月1日付で副病院長に就任しました、小児科の山形 崇倫です。一言、ご挨拶させていただきます。

私は、子ども医療センター長も兼任させて戴いており、小児に関連する分野を主に担当いたします。子ども医療センターは、今年で開院10年になります。皆様の御支援をいただき、成長してまいりました。今、小児医療は大きく変革してきています。気管支喘息などの慢性疾患の管理の改善、ワクチン普及など予防医学の発展による感染症の減少など、今までのcommon diseaseによる入院患者は減少しています。一方、新生児医療や、難治性疾患に対する管理や治療法が進歩し、重症患者や先進的治療を行う患者が増えており、高度医療への要求は高くなっています。当子ども医療センターは、このような入院患者の疾病構造の変化へ対応し、さらに高度の、最先端の医療を目指したいと思っております。一方、発達障害や社会不適応による心身の疾患への対応も大きな割合を占めるようになっており、また、小児でも、在宅医療は重要な課題で、地域と連携した医療を推進していかなければなりません。地域での発達相談や虐待への対応なども必要とされており、行政との連携も不可欠です。これらの状況を踏まえ、重症患者の診療や高度先進医療を進めていく中核施設として、また、地域医療の中心としての役割を両輪として、子ども達と家族を支えていきたいと思っております。

病院全体としても、多くの研修医や看護師が来てくれる魅力ある病院になれる様にし、リクルートにも力を入れていきます。臨床研究支援センターも立ち上がりましたが、各職種、各科の垣根を越え、大学全体として一体となり、基礎的研究に加え、臨床研究も充実させ、発信していかなければなりません。中堅となる世代のやりがい、充実感を得ることも、自治医大の将来に最も重要なことですので、この世代がやりたい医療や研究が出来るようにも支援できればと思っております。

佐田病院長を支え、微力ですが、自治医科大学病院の発展に尽力いたしますので、皆様方の御支援とご助言をお願いいたします。

地域医療連携・患者支援部長就任のご挨拶

感染制御部 部長
臨床感染症学 准教授 森澤 雄司



このたび地域医療連携・患者支援部長を拝命した森澤雄司です。自治医科大学附属病院が基本的な理念の一つとして掲げる「地域と連携する医療」を実践するため、地域医療連携・患者支援部はきわめて重要な部署であり、部長としての重責に身が引き締まる思いしております。わが国は現在の公的医療保険制度を維持する観点から、2025年の疾病構造に備えることを前提として医療施設の機能分化を進め、より効率的な医療提供体制に転換するべく国策として地域医療構想が議論されています。医療制度に関する議論は、ややもすれば財政的な問題意識が強くなりがちですが、私たちは現場で医療を提供する立場から、そのような制度的な視点だけではなく、患者の皆さんが安心して医療を受けていただくことを大前提としたいと考えています。もちろん、私たちは地域医療の基幹中核を担う高度医療機関としての役割を果たさなければ

ばなりません。患者の皆さんが当院をスムーズに受診していただき、安心した療養生活を送り、病院から在宅療養まで継続したケアを受けていただけるように、「顔の見える関係」で地域医療連携を進め、地域の病院や長期療養施設、医師会、行政と密接に連携していきたいと考えています。

私は平成16年4月に感染制御部長を拝命し、今回の併任まで12年間を本院で過したことになります。この間、平成21年秋からは新型インフルエンザの流行がありましたが、地域の皆さまの御協力により、この際も当院は高度急性ケアの医療を十分に維持することが出来ました。栃木地域感染制御コンソーティアム TRICK に参加されている地域の関連病院だけではなく、地域の郡市医師会を通じた地域医療の現場を担う先生方との連携、栃木県などの行政機関との連携の重要性を実感いたしました。

病診連携室、総合相談室、看護支援室、入退院支援室のスタッフとともに、外来受診から入院前・入院後まで患者の皆さんが安心して療養生活を送っていただくため、地域の皆さんと「顔の見える関係」を構築して、地域の皆さんに「自治医大があるから安心！」と言っていただけるように精進してまいります。この機会に地域の皆さんの御理解、御指導、御協力を心からお願い申し上げます。

就任のご挨拶

脳神経センター（内科部門）科長 内科学講座神経内科学部門 主任教授 藤本 茂



2016年4月より脳神経センター（内科部門）科長・内科学講座神経内科学部門、主任教授に就任いたしました藤本茂です。これからチーム一丸となって、また地域の皆様と力を合わせて神経内科疾患のよりよい診療体制を目指していきたいと思っております。

我が国は高齢化社会を迎え、脳卒中や認知症など神経内科疾患の患者数が年々増加しています。脳卒中は癌、心臓病、肺炎に次ぐ日本人の死亡原因の第4位で、寝たきりの原因では第1位を占めています。すなわち、神経内科疾患への最新最適な専門的診療のニーズは非常に高いと考えます。

脳卒中・神経疾患医療は大きく変化し、診断技術、治療技術は飛躍的に進歩しています。例えば、発症から間もない超急性期の脳梗塞においては、血栓溶解療法やカテーテルを用いた血管内治療による劇的な改善が期待できる症例もあります。当院では、積極的に脳卒中・神経疾患の患者さんを受け入れ、神経内科専門医・脳卒中専門医が迅速な診断のもと、最適な急性期治療・専門的治療を行っています。症例によっては迅速な外科的治療が必要となることもあり、脳神経外科との連携も重視しています。さらに、脳卒中や認知症予防の啓発を広めることで少しでも寝たきりや要介護の患者さんを減らすことも極めて重要な任務です。そのためには、地域社会との緊密な連携が求められます。

神経内科を運営する上の方針として

- ① 24時間質の高い診療
- ② 脳神経外科、救急科、リハビリテーション科、メディカルスタッフと緊密に協力した最新最適な医療の提供
- ③ 地域に密着し、地域医療や救急隊と連携し、受け入れ患者数を増やす
- ④ 危険因子や合併症について他の診療科との連携を強化
- ⑤ 診療と研究を通して医療の発展に貢献
- ⑥ 診療と研究を通して学生、若手医師を教育し、専門医を育成する

の6つを柱にしたいと考えます。

栃木県の神経内科疾患の診療の発展に全力で取り組んでいく所存です。今後とも御指導御鞭撻いただきますようよろしくお願い申し上げます。

〈平成28年度 附属病院の体制〉

役 職	氏 名	担 当	所属・職名
病院長	佐田 尚宏 さた なおひろ		
副病院長	松原 茂樹 まつばら しげき	総務、臨床研究	産婦人科科長
	山本 博徳 やまもと ひろのり	入院診療運営部、がん拠点病院	光学医療センター長
	遠藤 俊輔 えんどう しゅんすけ	医療安全、業務改善・負担軽減、新専門医制度	呼吸器センター長
	竹内 護 たけうち まもる	中央施設診療運営部	麻酔科科長
	山形 崇倫 やまがた たかのり	とちぎ子ども医療センター、小児医療、看護システム支援	とちぎ子ども医療センター長
	長田 太助 ながた だいすけ	外来診療運営部、健診センター	腎臓センター長
	朝野 春美 あさの はるみ	看護部業務	看護部長
病院長補佐	堀江 久永 ほりえ ひさなが	中央手術部医療材料タスクフォース、救急部・集中治療部・麻酔科等機能検討	中央手術部長
	新保 昌久 しんぼ まさひさ	医療安全、レジデント獲得・卒後指導、キャリア支援・教育接遇	医療安全対策部長
	森澤 雄司 もりさわ ゆうじ	感染対策担当、病診連携・地域医療	感染制御部長
	小池 創一 こいけ そういち	企画経営部、病院広報、医事支援・病院経営計画、組織・機構・予算	企画経営部長
	興梠 貴英 こうろ たかひで	病院情報システム、外来ボランティア	医療情報部長
オブザーバー	石川 鎮清 いしかわ しずきよ	栃木県地域医療政策	医学教育センター長

総合診療内科からのお願い

総合診療内科
科長 松村 正巳

日頃から総合診療内科との連携にご協力いただき、感謝申し上げます。

さて、当科にご紹介いただく患者の皆さまは、病態が複雑であり、当科外来受診後にそのまま緊急検査入院となる方も多いことから、外来を受診する際には、出来るだけ早い時間帯に来院していただきますと、その後の診療の流れが円滑に進むものと期待されます。

つきましては、当科あての紹介状をお渡しいただく患者の皆さまには、原則として平日の午前8時30分から午前9時までに来院のうえ、外来受付を済ませてくださるよう、ご説明をお願いいたします。

以上、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

NST研修会のご案内

参加無料（申し込み不要）

会 場 自治医科大学地域医療情報研修センター 中講堂（本館西側の茶色の建物）

内 容 NSTのための専門的な知識・技術を有する看護師・薬剤師及び管理栄養士の養成を目的とした研修
問合先 臨床栄養部 NST支援室 ☎ 0285-58-7574 メール nst@jichi.ac.jp

開催月日・会場	テ ー マ	講 師
平成28年 7月 5日（火） 18：00～19：00 研修センター 中講堂	アクセスデバイス(EDチューブ・PEG等) の指導と管理 簡易懸濁法について	看護部 古内 三基子 看護師 (NST専任看護師) 薬剤部 亀田 尚香 薬剤師 (専任薬剤師)
平成28年 8月 2日（火） 18：00～19：00 研修センター 中講堂	経腸栄養について (プラン・モニタリング) 経腸栄養から経口栄養への移行に ついて	臨床栄養部 川畑 奈緒 管理栄養士 (NST専任管理栄養士) リハビリテーションセンター 富樫 結香 言語聴覚士 (NST運営委員)
平成28年 9月 6日（火） 18：00～19：00 研修センター 中講堂	静脈栄養について (輸液カテーテル管理、感染管理静 脈栄養、プラン・モニタリング)	感染症科 大西 翼 医師 薬剤部 釜井 聡子 薬剤師 (NST専任薬剤師)